



## 夏期講習に向けて

夏期講習の申し込み用紙を配布したので、よ〜く考えて担当の先生に申し込もう。申し込み用紙に書いてある通り、申し込んだ以上はしっかり出席すること。休み中には、予備校の講習も体験したいと思っている諸君もいるだろうから、まずは計画を立てよう。

夏休み40日間は、星陵祭の準備もあったりして、なかなか計画通りには進まないものである。あまり無理な計画を立てないように。不得意科目・やらなければならない嫌いな科目については、ある程度やるべきことを決めておくべきだが、それ以外については、むしろ余裕をもった計画にしておいて、空き時間が出来た時に取り組むといった程度でイイのではないだろうか。秋以降は得意な科目を伸ばすことに重点が移っていくので、不得意な科目に時間がかけられるのは夏休みが最後である。そこだけはしっかり意識して計画を立てて欲しい。

その計画の骨組みをつくるのに（学校や予備校の）講習を活用してほしいわけである。例えば、「第Ⅰ期は地歴があるから、そこに重点を置き、午後は不得意な数学だけを選択し、第Ⅱ期・Ⅲ期は、第Ⅰ期にやった数学の復習と併行しながら、基礎理科と得意な英語を選択する…」といった感じで計画を立ててみよう。繰り返すが、予習・復習をしないと意味がないので、取り過ぎないこと。講座を選択しなくても自分でやらなければならないこと（例えば、やり終えてないサクシードの2周目をやる…とか）があるはずだから、それも踏まえて余裕のある計画を立てよう。

\*

ちなみに、日比谷の夏期講習は、午前2コ

マ+午後2コマで、一日合計4コマとなっているが、1コマが90分だから、当然のことながら扱う内容も多い。よって、4コマ全部を選択するのは考えものである。各講座で求められるだろう予習・復習の量を勘案して決めよう。

例えば、文系の人で、午前中に地歴の2コマがある場合は、午後から国・数・英のどれかを取ると（あるいは2科目選択すると）バランスがよい。ただ、それぞれどの程度の予習が求められるのかについては、担当の先生に確認すべきである。午後を選択した国・数・英の予習・復習が大変で、地歴の時間にウトウトしている…といったことになったら本末転倒。また逆に、午後から選択した国・数・英の講座に出席しているにも関わらず、そこでまたウトウトしているようでは、選択した意味がまったくないといっても過言ではない。何度も言ってきたことだが、講座を選択しただけでやった気になってはいけない。その講座をしっかり活用・理解してはじめて、その講座を「選択した」と言えるのである。

また、夏期講習とはいっても、1科目は基本5日間しかない。5日間で実力がつくわけではないのだから、その5日間で伝えたいことの一つには、9月以降の学習法ということもある。どんなところに注意して勉強すべきなのか、どんな風に問題演習に取り組み、それをどんな風に次の学習に結びつけるのか、といった話もしたいと考えている。自分の弱点を知るとともに、そういう勉強法のアドバイスみたいなものもしっかり吸収して、今後の学習に役立てて欲しいものだ。